

2019年度

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1491000244	事業の開始年月日	平成21年4月1日
		指定年月日	平成21年4月1日
法人名	株式会社アイシマ		
事業所名	グループホームやまぶき		
所在地	( 244-0002 ) 横浜市戸塚区矢部町1256		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	18名
		ユニット数	2ユニット
自己評価作成日	令和元年11月15	評価結果 市町村受理日	令和2年4月20日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/">http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/</a>
----------	---

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

私たちが働いているグループホームはハート面では良く完備されていると思います。敷地内には小さな畑があり、夏には赤いミニトマトの収穫ができます。利用者様と職員で収穫したトマトを昼食のサラダで供したり、おやつジュースにしたりしています。近隣の施設の人と夏にはそうめん流しをして交流をはがりました。外での食事もあり、施設の中で閉じこもりがちな生活を送られてはいません。少ない人員の中で、一人一人が献身的に仕事をして、利用者様に自分の「家」であることを目指しています。

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鶴沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階		
訪問調査日	令和元年12月27日	評価機関 評価決定日	令和2年3月22日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

事業所は、JR線又は地下鉄ブルーライン「戸塚」駅下車、「領家中前上矢部高校」経由「戸塚上矢部循環」バスで、「道祖神前」バス停下車徒歩2分のところ。静かな住環境の住宅地の一角にあり、開設10年を迎える2階建て2ユニットのグループホームです。隣接して公園や市の生活支援センター、障害者施設、小規模多機能型居宅介護事業所などがあります。

<優れている点>

理念は開設時に職員全員で相談して作り上げた独自のものです。事業所は家や家庭の延長であるとの精神のもとで、職員は一体となって理念の実践に努めています。利用者のその人らしさを大切に、安心した暮らしをモットーに支援しています。毎年定期的な研修を行い、開設当時から経験豊かな職員を中心に、常にスキルアップと利用者へのサービス向上に取り組んでいます。食事は利用者希望の食材を法人から取り寄せ、利用者の好みをベースに職員手作りの家庭料理を提供しています。一日の献立の中に常に魚や肉、パンやそばなどの選択食を入れ、栄養バランスに配慮した食事です。職員は利用者と同じ食事で食卓を囲み、楽しい食事時間を過ごしています。

<工夫点>

近くの公園を利用し、隣接している施設と合同で行う福祉祭りや交代で行う清掃などは、異業種の施設や地域の人達(子供達も)との交流、触れ合いの機会となっています。

### 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	やまぶき
ユニット名	いぶき

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	入職時のオリエンテーションで理念を説明し、事務所にも提示しています。毎月の全体会議やユニット会議でも確認し、共有しています。	理念は、開設時に職員全員で相談して作り上げた独自のものです。事業所は利用者の家庭の延長と位置づけ、その人らしく、安心した暮らしをモットーに、実践に努めています。例年の目標設定の際は、理念を確認し共有を図っています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	公園の清掃、地域の催し（祭り）に参加しています。流しそうめんの行事では近所の施設の利用者様にも参加して頂きました。	町内会に加入しています。公園の清掃は他の事業所と行き、地域に貢献しています。流しソーメンや近隣の施設と合同で行う福祉祭りでは、事業所間の交流、地域の人達との触れあいがあります。フラダンスやハーモニカ、バルーンなどのボランティアが来訪しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	ホームの見学の希望を頂き、案内させて頂きながら、認知症について説明させて頂きました。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	委員の方から町内会で行われているお祭りを紹介して頂きました。今回はご利用者が参加出来なかったが職員が参加し関係を深めることが出来ました。	2ヶ月ごと年6回開催しています。主なメンバーは町内会々長や利用者・家族、地域包括支援センター担当者です。活動報告の他、防災の夜間想定訓練や利用者ごとの郵便レターケースの設置、地域の行事の紹介などの意見交換をし、運営に反映しています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	ケースワーカーに必要に応じて（入居者様の現状、受診などについて）電話にて連絡、相談をして協力関係を築いている。	運営推進会議の報告や介護認定の申請代行、福祉のケースワーカーなど行政と連携を図っています。グループホーム連絡会に参加しています。インフルエンザ対策の研修、市や区の主催する感染症や成年後見人制度の研修などにも参加しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束の研修を実施しています。身体拘束をしないケアを理解、認識しています。玄関の施錠に関しては安心、安全に生活して頂けるよう施錠しています。	研修や事業所の行動指針などで周知しています。身体的拘束等適正化委員会のレポートを回覧し、共有しています。言葉遣いについてチェックシートや接遇マニュアルで振り返り、啓発しています。玄関やフロアのドアは安全上施錠していますが、利用者に外出の気配があれば職員は見守り同行します。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待の防止に関する研修に参加し、理解を深めることによって、虐待防止に努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	後見人制度の研修に参加しています。後見人制度を活用されている方がおられ、必要に応じて報告連絡させて頂いています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時には当社の専門部署職員と共に説明を行い、不明な点などをお聞きし、解決を図っています。納得いただいた上で契約締結おこなっています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族からの意見や要望等を伺う、相談窓口を設置し、相談頂いています。相談窓口の連絡先も掲示しています。	家族の訪問や運営推進会議、家族会で意見や要望を聞いています。家族のアンケート調査も行っています。運営推進会議の曜日変更、郵便受けのレターケースの設置、ケアプランの押印方法などの要望や意見に対応しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	全体会議、ユニット会議にて意見や提案を話し合っ、運営改善に活かしています。（例：職員補充）	各種の会議や個人面談の機会に職員の要望や意見を聞いています。管理者は常に職員が何でも話せる雰囲気を作っています。事業所の行事やイベントの企画提案、ケア業務の改善、シフトの作成など要望や意見などが提案され実行しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	管理者はスタッフと同じ現場、シフトで勤務し、個々の職員の状況や問題等を把握し、必要であれば解決に努めています。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	定期的に社内外の勉強会に参加し、人材育成に努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	会社内の勉強会、社員旅行にて他の事業所職員と交流を図る機会を設けています。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入所までに当社の専門部署が要望や不安を把握して問題解決の支援を行い、入居からは管理者、職員が不安や要望があった時は解決できるよう努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入所までに当社の専門部署が要望や不安を把握して問題解決の支援を行い、入居からは管理者、職員が不安や要望があった時は解決できるよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談時に入居者様や家族が必要としている状況を把握しています。入居者本位に出来る限り対応をしています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	人生の先輩であると尊敬の念をもって、意識して接するようにしています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	入居時や面会時などに入居者様の現状を伝えたり、情報を得るようにし、ともに入居者様を支えていくという気持ちで対応しています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	面会時間の制限は設けず、ご家族様との外出も自由にできることを入居時に説明しています。	利用者の電話や手紙の交信の支援を行っています。家族の協力で祭りの見学や外食、馴染みの野球の応援に出かけています。また、編み物や縫物、ピアノなどの趣味の継続の支援もしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	生活歴や好きなことが似ている同志と一緒に食事ができる席を考えています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	必要に応じて情報の交換をしています。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常生活での会話からご本人様の意向の把握。カンファレスで情報共有しています。	居室担当者と1対1の場や、日常の会話を通して、利用者のしたいこと、やりたい事を問いかけて把握しています。意思表示の困難な利用者は態度や仕草、視線などの観察で汲み取るようにしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご家族、ご本人に生活歴や好きな事を伺う。又、生活していく中で反応が良いものなど見極めることに努める。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	生活していく中での会話や仕草など職員で共有し把握する。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ご本人、ご家族の希望を伺い、毎月カンファレンスを行い、話し合いをしています。	毎月のユニット会議でカンファレンスを行っています。カンファレンスには居室担当を始め、管理者や職員が参加しています。ケアプランに利用者や家族の意見、医療情報を反映しています。3ヶ月ごとにモニタリングを実施し、ケアプランの見直しをしています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	ケアプランに沿って介護を行い、記録しています。定期的カンファレンスで話し合っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	利用者の状況に応じて対応しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域の公園の掃除を行っています。年に1回近隣の施設と一緒に祭りを行っています。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	かかりつけ医の通院を支援し医師など病院関係者にホームでの生活情報の提供をしています。	入居時に受診医について説明して、了解の下、事業所の協力医（内科、精神科、皮膚科、眼科、歯科）をかかりつけ医としています。定期的に往診があり、通院には事業所の職員が同行しています。看護師の訪問が毎週あり、適切な受診に繋がっています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	ご利用者様との日々の関りの様子からいつもと違う体調の変化に気づきその方に合った受診や看護が少しでも早い状況で受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご利用者様の入院の時は治療や早期退院のことを病院関係者と相談しています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化、終末期にすすむご利用者様に対して早い時期に本人、家族と話し合いの場をもつようにしています。ホームでできることを説明し、それをチームで共有し、支援できるように取り組んでいます。	入居契約時に「重度化した場合の対応指針」を説明しています。看取り時には「看取りに関する説明契約書」を交わし同意を得ています。終末期ケア、看取りに関する研修を実施し、カンファレンスで話し合い、チームで支援する体制を整えています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変、事故発生時に慌てず適切な対応が出来るよう、職員は応急手当、初期対応の実践を行い身に付けています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	定期的に訓練を行い昼夜を問わずご利用者様が避難できるよう全職員が身につけ地域との連携も大事にしています。	消防署員立ち会いの下、夜間想定避難訓練、救護訓練などを実施しています。また、隣接する3福祉施設と合同で近隣の矢部配郷公園まで利用者全員が避難する地震想定避難訓練を実施しています。非常災害用の衛生材料用品、飲・食料品などを備蓄しています。	非常災害時に必要な備品類が不足していると思われます。非常災害用備品類を充実し、備品リストで管理されることも期待されます。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	そのご利用者様を知ることによってその方の人格、誇り、プライバシーを守るような言葉がかけられるようにしています。	職員は接遇マニュアルを通して利用者に対する言葉遣いや態度、認知症に対する対応などを学び、人権を尊重した支援に努めています。言葉遣いチェックシートを活用し、全職員が自己チェックを行い、結果についてカンファレンスで振り返りを行っています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	職員が決めてしまうのではなくご本人に聞き、思いや希望をおっしゃたり、表現し自身で決めて頂けるようにしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	各ご利用者のペースを大事にし、その方に寄り添い支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	時間がかかってしまう時は声掛けをしつつも、ご自身の納得のいく身だしなみが整うように支援しています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	その方に合った食事の楽しみ方を考え、職員、ご利用者様と協力し準備や片付けまでを行っています。	献立は利用者の希望を入れて職員が作成し、家庭的な味付けで調理しています。職員は会話や介助をしながら利用者と一緒にテーブルを囲んで食事をしています。利用者からは「とても美味しかった」との声が出ています。準備や片付けも一緒に行っています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	一人ひとり体調によって食事量も考えています。一日の摂取量を主治医と話し合い提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	声掛け～全介助で全員のご利用者様に口腔ケアを行って頂いています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	尿意があまりない方は排泄表で排泄時間をチェックし誘導を行っています。	排泄チェック表で利用者個々の排泄パターンを把握し、トイレ誘導を行っています。また、食前、食後にも適宜声かけし、トイレでの排泄を促がしています。失禁の場合はプライバシーに配慮し、トイレや浴室で対応しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	便秘気味の方は10時のおやつに牛乳を出したり、水分を多めに飲んで頂いたりしています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	ご利用者様一人ひとりお湯の温度や入る時間などを工夫しています。	入浴は1週間に最低2回が基本ですが、希望に応じて入浴可能です。一般浴室と特浴室があり、利用者の心身状況に応じて使用しています。足ふきマットや浴槽の湯はその都度取替えて清潔さを保ち、湯温も個々に対応しています。ヒートショック対応のため暖房完備です。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	昼と夜が分かるように昼間はなるべく部屋を明るくし、会話する事を多くしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	一人ひとりの服薬説明書をファイルしているので分からない時はファイルを確認しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	ご利用者様一人ひとりの楽しみや役割を考えながらいただいています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	食事会、買い物など希望される方は出かけたりにしています。	午前中に散歩に出かけるようにし、散歩が難しい人は玄関前やベランダで外気浴を楽しむようにしています。事業所の車でドライブに出かけたり、四季に応じた花見やミカン狩りに出かけています。外食や買い物の希望に応じて外出の個別支援も行っています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	買い物を行った際は支払いをして頂いています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	各階に電話があり必要であればいつでも電話ができるようにしています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節の変化に気づいてもらえるように季節のイベントに合った装飾、草花を飾るようにしています。	リビング兼食堂には暖かな陽光が差し込んでいます。共用の空間は換気や清掃が行き届き、適度な明るさを保ち、嫌な臭いもなく清潔です。リビングや廊下の壁面には利用者の作品や行事写真が掲出され、季節感ある装飾もあり、居心地よい雰囲気です。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	テレビを囲んでゆっくりと寛げるように大きなソファを設置しています。転寝されたり新聞を読んだりされています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居時に愛用されていた家具を持ち込んで頂くようにしています。好みの写真等を飾って頂き心地よく過ごして頂くような工夫をしています。	利用者それぞれが馴染みの物を持ち込み、配置して自分なりの部屋作りをしています。掃除機を持って部屋の清掃を行う人もいます。職員は見守り、一緒に行っています。居室担当者が部屋の環境整備を行い、本人が心地良く生活できるよう支援しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	必要な箇所には手摺を設置して身体機能をいかせる環境づくりをしています。トイレ、居室には看板、表札などを付け生活しやすい環境づくりをしています。		

事業所名	グループホームやまぶき
ユニット名	わかば

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	入職時のオリエンテーションで理念を説明し、事務所にも提示しています。毎月の全体会議やユニット会議でも確認し、共有しています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	公園の清掃、地域の催し（祭り）に参加しています。流しそうめんの行事では近所の施設の利用者様にも参加して頂きました。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	ホームの見学の希望を頂き、案内させて頂きながら、認知症について説明させて頂きました。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	委員の方から町内会で行われているお祭りを紹介して頂きました。今回はご利用様が参加出来なかったが職員が参加し関係を深めることが出来ました。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	ケースワーカーに必要に応じて（入居者様の現状、受診などについて）電話にて連絡、相談をして協力関係を築いている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束の研修を実施しています。身体拘束をしないケアを理解、認識しています。玄関の施錠に関しては安心、安全に生活して頂けるよう施錠しています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待の防止に関する研修に参加し、理解を深めることによって、虐待防止に努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	後見人制度の研修に参加しています。後見人制度を活用されている方がおられ、必要に応じて報告連絡させてもらっています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時には当社の専門部署職員と共に説明を行い、不明な点などをお聞きし、解決を図っています。納得いただいた上で契約締結おこなっています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族からの意見や要望等を伺う、相談窓口を設置し、相談頂いています。相談窓口の連絡先も掲示しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	全体会議、ユニット会議にて意見や提案を話し合っ、運営改善に活かしています。(例：職員補充)		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	管理者はスタッフと同じ現場、シフトで勤務し、個々の職員の状況や問題等を把握し、必要であれば解決に努めています。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	定期的に社内外の勉強会に参加し、人材育成に努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	会社内の勉強会、社員旅行にて他の事業所職員と交流を図る機会を設けています。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入所までに当社の専門部署が要望や不安を把握して問題解決の支援を行い、入居からは管理者、職員が不安や要望があった時は解決できるよう努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入所までに当社の専門部署が要望や不安を把握して問題解決の支援を行い、入居からは管理者、職員が不安や要望があった時は解決できるよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談時に入居者様や家族が必要としている状況を把握しています。入居者本位に出来る限り対応をしています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	人生の先輩であると尊敬の念をもって、意識して接するようにしています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	入居時や面会時などに入居者様の現状を伝えたり、情報を得るようにし、ともに入居者様を支えていくという気持ちで対応しています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	面会時間の制限は設けず、ご家族様との外出も自由にできることを入居時に説明しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	生活歴や好きなことが似ている同志と一緒に食事ができる席を考えています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	必要に応じて情報の交換をしています。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常生活での会話からご本人様の意向の把握。カンファレスで情報共有しています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご家族、ご本人に生活歴や好きな事を伺う。又、生活していく中で反応が良いものなど見極めることに努める。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	生活していく中での会話や仕草など職員で共有し把握する。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ご本人、ご家族の希望を伺い、毎月カンファレンスを行い、話し合いをしています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	ケアプランに沿って介護を行い、記録しています。定期的にカンファレンスで話し合っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	利用者の状況に応じて対応しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域の公園の掃除を行っています。年に1回近隣の施設と一緒に祭りを行っています。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	かかりつけ医の通院を支援し医師など病院関係者にホームでの生活情報の提供をしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	ご利用者様との日々の関りの様子からいつもと違う体調の変化に気づきその方に合った受診や看護が少しでも早い状況で受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご利用者様の入院の時は治療や早期退院のことを病院関係者と相談しています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化、終末期にすすむご利用者様に対して早い時期に本人、家族と話し合いの場をもつようにしています。ホームでできることを説明し、それをチームで共有し、支援できるように取り組んでいます。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変、事故発生時に慌てず適切な対応が出来るよう、職員は応急手当、初期対応の実践を行い身に付けています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	定期的に訓練を行い昼夜を問わずご利用者様が避難できるよう全職員が身につけ地域との連携も大事にしています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	そのご利用者様を知ることによってその方の人格、誇り、プライバシーを守るような言葉がかけられるようにしています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	職員が決めてしまうのではなくご本人に聞き、思いや希望をおっしゃたり、表現し自身で決めて頂けるようにしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	各ご利用者のペースを大事にし、その方に寄り添い支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	時間がかかってしまう時は声掛けをしつつも、ご自身の納得のいく身だしなみが整うように支援しています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	その方に合った食事の楽しみ方を考え、職員、ご利用者様と協力し準備や片付けまでを行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	一人ひとり体調によって食事量も考えています。一日の摂取量を主治医と話し合い提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	声掛け～全介助で全員のご利用者様に口腔ケアを行って頂いています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	尿意があまりない方は排泄表で排泄時間をチェックし誘導を行っています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	便秘気味の方は10時のおやつに牛乳を出したり、水分を多めに飲んで頂いたりしています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	ご利用者様一人ひとりお湯の温度や入る時間などを工夫しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	昼と夜が分かるように昼間はなるべく部屋を明るくし、会話する事を多くしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	一人ひとりの服薬説明書をファイルしているので分からない時はファイルを確認しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	ご利用者様一人ひとりの楽しみや役割を考えながらいただいています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	食事会、買い物など希望される方は出かけたりしています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	買い物を行った際は支払いをして頂いています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	各階に電話があり必要であればいつでも電話ができるようにしています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節の変化に気づいてもらえるように季節のイベントに合った装飾、草花を飾るようにしています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	テレビを囲んでゆっくりと寛げるように大きなソファを設置しています。転寝されたり新聞を読んだりされています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居時に愛用されていた家具を持ち込んで頂くようにしています。好みの写真等を飾って頂き心地よく過ごして頂くような工夫をしています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	必要な箇所には手摺を設置して身体機能をいかせる環境づくりをしています。トイレ、居室には看板、表札などを付け生活しやすい環境づくりをしています。		

2020年度

事業所名 グループホームやまぶき

作成日： R2 年 4 月 8 日

優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた 具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	13	新入社員や経験の浅い職員はいます。より専門的な知識が必要になる。	職員の基本的な心構えとスキルアップ。	研修会、法人勉強会に積極的に参加する。資格を身につける。	12ヶ月
2	35	災害備蓄品は三日間分しか在庫がなく、補充した分はリストに載る。	備蓄品を増やすよう本社に提案する。補充した品は直ちにリストに書き換える。	備蓄品を整理してリストを分かりやすく記入、展示する。	1ヶ月
3	60	人員不足しているため、利用者様への個別外出支援が減ってきている。	個別外出支援をする。	職員の紹介制度を利用して人員確保する。利用者様のご希望に沿って外出支援する。	12ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月